

VRで楽器演奏体験

静大と浜松市の博物館



静岡大などが開発したVRによる楽器の演奏体験
＝浜松市中区の市楽器博物館

静岡大情報学部と浜松市楽器博物館(中区)の共同プロジェクト「仮想現実(VR)楽器演奏体験」のイベントが23日、同館で開かれた。ペルー発祥とされる木箱の打楽器「カホン」の疑似演奏を来館者に披露した。同館が所有しているカホ

ンは貴重なため来館者はたたくことができないことから、本物に寄せた打感と音色をVR上で可能にした。システムは同大の杉山岳弘研究室の学生らが開発した。ターンテーブルに乗せたカホンを回転させながら、4台のカメラで144枚の画像を撮影して3Dモデル化し、音はプロのパ

カッション奏者にカホンをたたいてもらって収録した。

同大の水野萌子さん(22)は「VRでの演奏体験を通じて、楽器の文化的価値を知ってもらいたい」と話した。